

富山連協たより

J P 労組富山連協退職者の会

発行責任者 川添 晃
編集責任者 東 秀雄

富山連協退職者の会「第7回総会」 2021年度活動計画（案）

1. はじめに

- (1) J P 労組富山連協退職者の会は結成から7年経過しました。私たちは組織結成から今日まで会員相互の親睦と交流を深めつつ、会員増加に努めてきました。
- (2) しかし、コロナ禍により予定・計画した会議やレク行事も中止や延期になりました。会員の拡大も訪問活動も制限され十分な成果を発揮することはできませんでした。
- (3) J P 労組は来年7月（予定）の第26回参議院議員選挙（比例代表）に「しば慎一」中央副執行委員長を擁立します。また、衆議院は今年は10月までに行われます。連続する国政選挙は、高齢化社会における年金医療のあり方を問う選挙となります。
- (4) 安心安全で活力ある社会にするために現退一体となってJ P 労組の推薦候補「しば慎一」必勝に総力を挙げることにします。また、後援会活動を活発化し、現役組織と連携を深める場と認識し、活動の前進と会員拡大につなげていきます。
- (5) 組織慶弔金制度は第6回全国総会において、新慶弔制度がスタートしました。地方退職者の会に会員一人当たり100円の原資で「組織慶弔安定会計」を設定しました。連協予算から100円を拠出して値上げをしません。100円拠出したお金は地方退職者の会に「組織慶弔安定会計」を設置し管理します。期間は5年間、組織慶弔会計が残高不足となった場合は、当該連協へ組織慶弔安定会計から不足を送金することになりました。

2. 1年間を振り返って

会員拡大の取り組み

J P 労組富山連協退職者の会は119名で第6回富山連協総会以降の脱会者は2名、新規加入者5名です。

昨年総会で8%増・9名拡大を目標に、1年間未加入者に対して声かけをしましたが、5名の増加にとどまりました。要因としてはコロナ禍の中、訪問活動を活発にできなかったこと、定年年齢が延長されたこと、協力会員が退職後も郵便局に勤務しJ P 労組組合員にとど

まっているので退職者の会に加入できないことなどがあげられます。

また、退職後3年以上経過して「今さら」と断られることが多いです。5名の新規加入者の退職者の経過年数は3年未満です。これから判断できることは、退職者の名簿を早く入手し対策することが重要と思います。

3. 2021年度の活動方針

(1) 会員拡大の取り組み

会員の新規加入者の獲得は組織にとって最も重要なことです。未加入者への呼びかけについては、定年延長や年金の受給金額の引き下げ受給年齢の引き上げなどの理由によって退職後も郵便局で勤務するなど退職者の会への加入対象者が少ないという状況にあります。目標の5%達成に向けて全力で取り組みます。

(2) 会員相互の「親睦と交流」

会員相互の「親睦と交流」に対する具体的な活動として「パークゴルフ」「親睦旅行」「新春の集い」を企画しています。「パークゴルフ」は2022年6月、「親睦旅行」は2021年10月か11月、「新春の集い」は2022年1月か2月に開催を予定しています。今年の「親睦旅行」は陶芸体験を予定します。陶芸を一度は経験したいと思っていたという会員の声があり企画しようと検討しています。機会がなく一度は経験したいと思われる方はぜひ参加してください。詳細については富山連協たよりにてお知らせします。

(3) 政治活動について

私たち退職者にとってもっとも気になる年金・医療問題は、政府によって年金の受給額引き下げや受給年齢の引き上げ、医療負担額の増加や負担比率の増加となり退職者の生活が一層厳しくなります。そうならないために2022年の参議院選挙では私たちの声を届けるために比例区選挙において組織内候補「しば慎一」の勝利に向けて会員が一丸となって全力で取り組みます。

また、日々の政治活動として「みらい研」の加入に取り組みます。「みらい研」はJ P 労組が中心となって組織している政治団体です。希望を持てる日常生活を送るために会員の20%加入を目標とします。

(4) 連協だよりの発行

北陸地方退職者の会と連携し「連協たより」を年4回発行し、会員への情報提供と会員相互の連携に努めます。紙面には皆さんからの情報や日頃の疑問等へ対応にも応えるなど魅力ある紙面づくりに努めますので会員からの投稿をお願いします。

(5) 富山県退職者連合との連携強化

富山県退職者連合との連携を強化し高齢化時代が抱えている諸課題の解決に積極的にかかわっていきます。また、私たちと考えが同じ地方議会議員の増加に努めるために退職者連合の推薦する候補者を支援します。